

令和7年(2025年)8月26日

報道関係 各位

真庭市役所

真庭のSDGs・バイオマスを体感します！

岡山大学×真庭市

SDGs を目指す産業体験講座を開催

日程▶ 令和7年9月1日(月)～2日(火)

場所▶ 岡山大学農学部ほか

真庭市では、岡山大学の学生を対象に、市内のバイオマスやSDGsの取組等を学んでもらい、真庭市の魅力に興味をもってもらえるよう、「岡山大学×真庭市SDGsを目指す産業体験講座」を開催しています。今回は農学部を中心とした27名の学生が2日間にわたり、講義やディスカッションのほか、バイオマス関係施設を見学します。

つきましては、取材くださいますようお願いいたします。

概要▶

1.日 時 令和7年9月1日(月)午後1時30分～2日(火)午後2時15分

2.場 所 岡山大学農学部及び訪問施設3か所 ※詳細は別添の行程表をご参照ください。

9月1日 岡山大学農学部 (農学部I号館 第1講義室)
(岡山市北区津島中1丁目1番1号)

9月2日 真庭バイオマス集積基地 (真庭市上河内3828-13)
真庭バイオマス発電所 (真庭市目木1-1)
真庭市くらしの循環センター (真庭市赤野1205-2)

3.内 容 9月1日 岡山大学教授の講義やディスカッション等

9月2日 バイオマス関連施設の見学

受講学生：岡山大学の学生27名

お問い合わせ先▶

林業・バイオマス産業課 (担当 高島)

TEL：0867-42-5022 FAX：0867-42-3907



岡山大学 × 真庭市



SDGs を目指す産業体験講座

日時：令和7年9月1日(月)～2日(火)

会場：岡山大学農学部

真庭バイオマス発電所 ほか

費用：3,000円以内

定員：20名程度



■ プログラム ■

9月1日(月)

時間	場所	内容
13:30 - 14:00	岡山大学	真庭市 産業観光部 林業・バイオマス産業課 真庭市のバイオマス事業の取組紹介 (30分)
14:00 - 14:05	同上	休憩 (5分)
14:05 - 14:55	同上	真庭市 産業観光部 農業振興課 農政企画室 藤田室長 「資源と人がめぐる真庭のめぐり野菜」 (50分)
14:55 - 15:05	同上	休憩 (10分)
15:05 - 15:55	同上	岡山大学 本田 恭子 准教授 「バイオマスと農村 -地域で活かす, 地域を活かす-」 (50分)
15:55 - 16:10	同上	休憩 (15分)
16:10 - 17:00	同上	座談会 真庭市 林業・バイオマス産業課 真庭市 農業振興課 農政企画室 藤田室長 「まにわのバイオマスについて学生と考える」 (50分) ファシリテーター：岡山大学 本田 恭子 准教授



本田 恭子 准教授

1981年生まれ
専門は農村社会学。農山村の水資源の新たな活用法として、小規模な水力発電に着目し、中国地方の実態調査を行っている。持続可能な社会を実現するために、農村社会と調和した再生可能エネルギーのあり方の解明を目指している。

9月2日(火)

時間	場所	内容
9:00	岡山大学	岡山大学 出発
9:00 - 10:20		移動 (バス)
10:20 - 11:00	真庭バイオマス集積基地	真庭バイオマス集積基地 施設見学 (40分)
11:00 - 11:05		移動 (バス)
11:05 - 11:45	真庭バイオマス発電所	真庭バイオマス発電所 施設見学 (40分)
11:45 - 12:00		移動 (バス)
12:00 - 13:00	真庭あぐりガーデン	昼食 (60分)
13:00 - 13:15		移動 (バス)
13:15 - 14:15	真庭市くらしの循環センター	真庭市くらしの循環センター 施設見学 (60分)
14:15 - 15:30		移動 (バス)
15:30	岡山大学	岡山大学 到着

※行程の内容については視察先の状況等により変更になる場合があります。



2030年に向けて世界が向き合っている「持続可能な開発目標」です



■ 見学先の紹介 ■



真庭バイオマス集積基地

真庭バイオマス発電所等に出荷する木質チップの生産工場。未利用資源を「買い取る」という仕組みを構築したことで、地域住民、素材生産事業者、森林組合などから多くの資源が集まる。



真庭バイオマス発電所

発電出力 10,000kW の木質バイオマス発電所。主に地域内の木を燃料として利用し、発電した電気の一部を市役所、市内小中学校などに供給。エネルギーの地産地消を実現。



真庭市くらしの循環センター

生ごみやし尿、浄化槽汚泥を資源として再利用し、バイオガスと液体肥料を生産する最新の資源化施設。廃棄物を資源として再生させることで、ごみ処理コストの削減と循環型のくらしの実現を目指している。